

平成 20 年度通常総会議案について

平成 20 年度通常総会は去る 4 月 21 日に開催され、以下の総会議案がすべて原案通り承認されましたのでお知らせします（詳しくは <http://www.orsj.or.jp/Members/reports.htm> をご覧ください）。

平成 19 年度事業報告（第 1 号議案）

I. 事業の概要

1. 研究発表会（定款第 5 条 1 号）

(1) 3 月 28 日、29 日の両日、鳥取大学において、第 101 回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「地方からの OR」
- ・特別講演（一般公開）
 - 1) 鳥取県の行財政改革から 藤井善臣（鳥取県副知事）
 - 2) 日本の工学教育認定制度 向殿政男（明治大学教授）

- ・発表件数 110 件
 - 一般発表 109 件
- ・参加者数 279 名

(2) 9 月 27 日、28 日の両日、政策研究大学院大学において、第 102 回研究発表会を開催した。

- ・特別テーマ「OR の新展開—さらなる変革と融合と発展を目指して—」
- ・特別講演（一般公開）
 - 1) INFORMS: And the state of OR in the US
Dr. Brenda Dietrich (INFORMS 会長)
 - 2) 永続する企業文化「HP Way」

飯塚雅樹（日本ヒューレット・パッカーード(株) 取締役）

- ・発表件数 129 件
 - 一般発表 127 件
 - 招待講演 2 件
- ・参加者数 408 名

2. シンポジウム（定款第 5 条 1 号）

(1) 3 月 27 日、鳥取大学において、第 57 回シンポジウム「信頼性—温故知新—」を開催した。講演 5 件、参加者は 56 名であった。

(2) 10 月 13 日、中央大学後楽園キャンパスにおいて、第 58 回シンポジウム「職業としての OR」を開催した。講演 6 件、パネル・ディスカッション。参加者は 51 名であった。

3. 普及活動（定款第 5 条 1 号）

(1) OR セミナー

- ・第 1 回「データマイニング—理論と実務の最前線—」を 7 月 5 日、東京国際フォーラムで開催した。参加者 21 名。

題 目	講 師
知識発見再考—データマイニングの可能性—	香田 正人 (筑波大学)
データマイニングシステム構築の実際と展望	徐 良為 (株数理システム)
信販会社の加盟店管理におけるデータマイニング活用の試み	栢本 淳一 (新生銀行) 中村 一峰 (株アプラス)
データマイニングから最適化へ—コンサルティング分野におけるマイニングの現実	松本 健 (株リクルート)

- ・第 2 回「需要予測と意思決定」を 9 月 14 日、情報オアシス神田で開催した。参加者 18 名。

題 目	講 師
予測モデルの理論：「様々な予測法の紹介」	上田 徹 (成蹊大学)
予測モデルの最新動向：「予測市場システムに基づく暗黙知集約型需要予測法」	水山 元 (京都大学)
マネジメント活用事例：「需要予測システム導入成功のポイント」	浅田 克暢 (キヤノンシステムソリューションズ(株))
意思決定活用事例：「エネルギー業界における需要予測と意思決定」	塩野 直志 (東京ガス(株))

- ・第 3 回「問題解決型意思決定手法：AHP の実践」を 12 月 3 日、東京国際フォーラムで開催した。参加者 11 名。

題 目	講 師
AHP/ANP とは何か	木下 栄蔵 (名城大学)
AHP を利用したマレーシア農村開発プロジェクトの参加型意思決定	松村 みか (㈱コーエイ総合研究所)
三重県における AHP を用いた行政評価	佐藤 祐司 (三重中京大学)
市民からみた建設工事の事業者選定要因分析	高野 伸栄 (北海道大学)
電力会社の通信ネットワークにおける伝送網の選択問題への適用	大屋 隆生 (国士舘大学)

(2) OR 企業フォーラム

平成 19 年 12 月 13 日に第 1 回 OR 企業フォーラムの開催を予定していたが、講師の急病により中止となった。

(3) 企業事例交流会

- ・第 19 回企業事例交流会は、第 101 回研究発表会（鳥取大学）にて 3 月 28 日開催。発表件数 3 件。
- ・第 20 回企業事例交流会は、第 102 回研究発表会（政策研究大学院大学）にて 9 月 27 日開催。発表件数 4 件。

(4) 新宿 OR 研究会

昭和 55 年創設以来、年間 10 回の例会を開催している。テーマは OR 関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に適ったもので、メンバーの啓発、懇親を行っている。会誌に開催案内を掲載し、新宿地区を中心に会員の幅広い参加を呼びかけている。

4. 刊行物（定款第 5 条 2 号）

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 52, No. 3~No. 12 各 3,300 部, Vol. 53, No. 1~No. 2 を各 3,150 部発行した。
- (2) 論文誌（Journal of the Operations Research Society of Japan）Vol. 50, No. 1~No. 3 を各 2,750 部, Vol. 50, No. 4 を 2,600 部, 和文論文誌（Transactions of the Operations Research Society of Japan）Vol. 50 を 2,500 部発行した。
- (3) 研究発表会アブストラクト集およびシンポジウム予稿集
春季・秋季研究発表会のアブストラクト集およびシンポジウム予稿集を発行した。
- (4) セミナーテキスト
「データマイニング—理論と実務の最前線—」「需要

予測と意思決定」「問題解決型意思決定手法：AHP の実践」に関するテキストを発行した。

5. 日本学術会議並びに他学協会との連携・協力（定款第 5 条 3 号）

(1) 日本学術会議関連

平成 18 年 8 月から総合工学分野の連携会員として高橋幸雄氏（OR 学会前副会長・東京工業大学）が任命された。なお、FMES 関連では他に久米均氏（QC）、圓川隆夫氏（QC）、向殿政男氏（信頼性）が連携会員として任命され、主として総合工学委員会、工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会の中で活動している。

(2) 経営工学関連学会協議会（FMES）関連

高橋幸雄氏が FMES の会長（2006 年 4 月から任期 2 年）、幹事は香田正人氏（渉外理事、筑波大学）が務めている。なお、FMES の事務局は平成 17 年 7 月から㈱日本品質管理学会が務めている。平成 19 年度の FMES の活動は以下の通り、日本学術会議と連携してのシンポジウム開催および JABEE 認定審査であった。

① シンポジウム委員会

平成 19 年度のシンポジウムは平成 19 年 6 月 29 日「情報投資と経営成果」をテーマに、日本学術会議講堂において開催された。今年度の幹事学会は経営情報学会であった。

② FMES/JABEE 委員会

当学会からは運営委員に香田正人氏、上田徹氏（渉外委員、成蹊大学）が派遣されている。また、審査委員会にも OR 学会関係の有資格者を派遣し、経営工学分野の JABEE 認定審査に協力している。平成 19 年 9 月 29 日には、FMES 主催「JABEE 経営工学関連分野審査員講習会」を開催した。

(3) 日本技術者教育認定機構（JABEE）

当学会は 2001 年 2 月に正会員として加入（会費 1 口 10 万円）するとともに上記 FMES グループとして加入、その幹事会費分（日本経営工学会、日本品質管理学会と当学会の 3 学会が各 10 万円）を負担している。

なお、JABEE の理事として FMES 会長の高橋幸雄氏を送っている。

(4) ㈱日本工学会関連

工学系 102 学協会の連合体である㈱日本工学会の諸活動に協力し、また同会事務研究委員会に委員 1 名（事務局長）が参加している。

(5) 横断型基幹科学研究団体連合（略称：横幹連合）

この連合は「社会発展の基礎となる新しい価値体系

である横断型基幹科学技術の重要性を提唱し、その創造と進歩に資する活動を行うこと」を目的に計測自動制御学会、FMESメンバーなど30学会が参加して、平成15年4月に設立総会を開催し、正式発足した。当学会からは代議員として香田正人氏、理事として鈴木久敏氏（筑波大学）が派遣されている。

6. 他学協会との交流（定款第5条3号）

他学協会の下記講演会等に協賛、後援した。

- ・2007年度秋季全国研究発表大会（経営情報学会）
- ・計測自動制御学会関西支部平成19年度講習会（計測自動制御学会）
- ・計測自動制御学会システム・情報部門学術講習会2007（計測自動制御学会）
- ・2007年年次大会（国際システム科学学会）
- ・第57回システム制御情報講習会（システム制御情報学会）
- ・スケジューリング・シンポジウム2007（スケジューリング学会）
- ・第37回信頼性・保全性シンポジウム（日本科学技術連盟）
- ・第9回日本感性工学会年次大会（日本感性工学会）
- ・生産システム部門講演会2007（日本機械学会）
- ・第50回自動制御連合講演会（日本機械学会、他）
- ・第26回日本シミュレーション学会大会（日本シミュレーション学会）
- ・第15回春季信頼性シンポジウム（日本信頼性学会）
- ・日本信頼性学会フォーラム（日本信頼性学会）
- ・第20回秋季信頼性シンポジウム（日本信頼性学会）

- ・第23回ファジィシステムシンポジウム（日本知能情報ファジィ学会）
- ・計測・制御・システム工学部会システムフォーラム（日本鉄鋼協会）
- ・2007年研究発表会（日本リアルオプション学会）

7. 国際協力（定款第5条3号）

- (1) IFORS (International Federation of Operational Research Societies) の副会長として大山達雄氏（政策研究大学院大学）を選出し、各国のOR学会との交流、協力を図った。
- (2) APORS (Association of Asian-Pacific Operational Research Societies) の副会長として大山達雄氏（政策研究大学院大学）を選出し、アジア・太平洋地域のORの発展と加盟学会の情報交換に協力した。
- (3) IAOR (International Abstracts in Operations Research) の編集、発行に協力し、日本の文献抄録を送付するとともに、IAORの国内頒布に協力した。
- (4) APJOR (Asia-Pacific Journal of Operational Research) の編集、発行、頒布に積極的に協力した。
- (5) EJOR (European Journal of Operational Research) の編集、頒布に協力した。

8. 受託研究活動（定款第5条4号）

学会の公益活動の一環として、本年度も前年度に引き続き、(財)グローバル・インフラストラクチャー研究財団からの受託研究を「未来のインフラストラクチャー」研究部会を窓口を実施した。

9. 研究部会・研究グループ（定款第5条4号）

研究部会・研究グループ終了/中間報告

- ◎印 終了を示す
- *印 研究グループを示す
- ☆印 常設部会を示す

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容
☆待ち行列	小野里好邦 (群馬大学) 河西 憲一 (群馬大学)	22名	7回	待ち行列ならびに関連分野の専門家を招き研究発表会を開催し、理論研究から応用まで最新の成果について活発に意見交換した。また、昨年度に引き続き学生・初学者向けのチュートリアル講演を開催した。
☆数理計画 (RAMP)	藤重 悟 (京都大学) 平井 広志 (京都大学)	30名	1回	第19回シンポジウム（セッション：離散アルゴリズム、金融工学における最適化の実用、連続最適化の展開）を10月25・26日に長崎ブリックホールにて開催した（参加者109名）。
☆統合オペレーション	山田 郁夫 中野 一夫 (構造計画研究所)	13名	2回	サービスサイエンスの最近の研究状況と日米政府の施策の展開を比較し、統合ORの立場からの課題について討論した。また、自治体における行政評価の取り組みに関する実態調査と、首長マニフェストへの対応などが報告された。
☆評価のOR	森田 浩 (大阪大学) 関谷 和之 (静岡大学)	14名	5回	年4回の定例研究会を開き、ORでの評価手法、意思決定手法に関する研究発表を8件行った。秋季研究発表会で「評価のOR」特別セッションを行い、他にもDEAシンポジウムを開催し、基調講演2件、招待講演5件と一般講演13件を行った。
☆意思決定法	木下 栄蔵 (名城大学) 大屋 隆生 (国士館大学)	26名	3回	AHPを中心とした意思決定法に関する発表により、意思決定手法の理解を深め、マネジメントにおける適用性を高めることができた。AHP普及のため第3回ORセミナーを実施した。

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容
◎サプライチェーンネットワーク	高井 英造 (フレームワークス) 草刈 君子	50 名	8 回	8 回の研究会を開催 (3 年で 27 回延参加者 760 名)。サプライチェーンネットワーク合理化の展開に関して実務家と専門家の協働による多面的な研究を行い、人的 OR ネットワーク形成も行った。資料と記録はホームページで公開。
◎食料・環境問題における数理的手法	伊藤 健 (東北大学) 毛利進太郎 (神戸学院大学)	19 名	5 回	食料・環境問題にまつわる様々な取り組みについてメンバー間で多くの知見を共有するとともに、数理的な改善の可能性を議論し、今後の課題解決・発展に対する意見交換を行った。
◎マーケティングインテリジェンス	中川慶一郎 (NTT データ) 生田目 崇 (専修大学)	30 名	6 回	マーケティング活動にデータを活用する技術、分析手法の研究を行った。最新の研究報告の他、データ分析技術の発展と意見交換を含めて、データ解析コンペティションを開催し、28 チーム、130 名の参加を得た。
◎知的決定支援の理論と方法	乾口 雅弘 (大阪大学) 西 竜志 (大阪大学)	15 名	5 回	5 回の研究会を開催し、意思決定理論や最適化に加えて、メタフェーリスティック、データマイニング、ファジィ理論などの知能工学的手法も視野に入れて、知的意思決定支援の理論や方法について検討した。
◎情報ネットワーク性能評価	岳 五一 (甲南大学) 米山 寛二 (兵庫県立大学)	16 名	7 回	マルチメディア通信、アドホックネットワーク、性能解析・評価・最適化手法などに関して最先端の理論的研究のみならず実践的な研究についても講演していただき、産官学の学術交流と若手研究者の育成を推進した。
◎若手 OR 研究者の会	増山 博之 (京都大学) 檀 寛成 (関西大学)	9 名	5 回	5 回の研究会を開催し、待ち行列理論、確率モデル、数理計画、組合せ最適化など、14 件の研究発表がなされ、若手研究者による OR 横断的な研究会たらしとする設立趣旨に則った活動が行われた。
OR と実践	成瀬 喜則 (富山商船高等専門学校) 金子 宏之 (小松短期大学)	13 名	5 回	北陸地区を会場にして、5 回の研究会を行った。地域経済発展、企業合併、ポートフォリオ等様々なテーマを対象にして、OR の手法を諸課題解決に適用した研究発表が行われ活発な議論がなされた。
計算と最適化	村松 正和 (電気通信大学) 森口 聡子 (上智大学)	15 名	5 回	毎回 2 名の講演者を招き、問題解決の数理的手法としての計算およびアルゴリズムに関する研究発表を行った。他に筑波で合宿形式の研究会を開き、2 件の特別講演と 18 件の一般発表を行った。
ゲーム理論と経済工学	武藤 滋夫 (東京工業大学) 福田恵美子 (防衛大学校)	50 名	9 回	9 回の研究会を開催し 10 件の報告があった。理工学、社会科学の各分野でのゲーム理論の発展性や、各分野での成果を相互に取り入れた理論の進展性について、有意義な研究交流を行うことができた。
コンピューテーション	加藤 直樹 (京都大学) 藤江 哲也 (兵庫県立大学)	15 名	5 回	毎回 2~3 名の講師を招き、最適化理論・アルゴリズム理論・計算量理論といった計算に関連する研究発表をしていただき、情報交換や議論を行った。
不確実性環境下での意思決定の理論と応用	菊田 健作 (兵庫県立大学) 川勝 英史 (流通科学大学)	11 名	5 回	不確実な要素を含む問題に関連した内容を中心に、ゲーム理論、在庫管理、信頼性、金融工学、情報処理等の分野から報告していただいた。活発な議論や質疑応答を通じて研究交流を行い、多くの知見を得た。
安全安心学	氏田 博士 (エネルギー総合工学研究所) 増田 浩通 (東京工業大学)	20 名	5 回	5 回の研究会を開催し、内容は、ヒューマンエラー、工場における組織事故、迷惑メール対策、MOT におけるリスクマネジメント、警察行政における安全安心対策と多岐にわたり、充実した研究部会であった。
SCM 時代の製造マネジメント	伊呂原 隆 (上智大学) 成松 克己 (東芝)	30 名	9 回	環境、会計、ビジネス特性など、様々な観点で製造マネジメントを議論する会合を行った。各会合で基本的に 1 人の講演を依頼し、1 時間を講演、1 時間を質疑にあて、十分な内容の理解と議論を行った。
ソフトコンピューティングと OR	片桐 英樹 (広島大学) 柴田 淳子 (神戸学院大学)	12 名	5 回	ソフトコンピューティング手法と OR の融合分野の理論と応用、ならびに実社会への応用問題について検討を行った。当学会の他研究部会と共催で研究会を実施し、研究者間の交流の活性化に努めた。
ファイナンスと意思決定	木島 正明 (首都大学東京) 田中 敬一 (首都大学東京)	12 名	8 回	無裁定理論をベースにした様々なオプション価格、リアルオプションによる意思決定の問題、金融リスク管理、整数計画法の応用に関する研究を行った。チュートリアルセッションや実務家の研究発表も行われた。

部 会 名	主査幹事	メンバー	開催	内 容
不確実環境下での柔構造最適化モデリング	岩村 覚三 (城西大学) 安田 正實 (千葉大学)	9名	6回	確率論では捕えられない不確実性測度の理論的研究を行った。また、不動点近似問題、ダイナミックプログラミング最適経路問題、GA や AHP モデルの他に品質管理などの確率モデルなどを研究した。
未来のインフラストラクチャー	栗田 治 (慶應義塾大学) 高嶋 隆太 (東京大学)	20名	11回	未来のインフラストラクチャーに関連する問題を OR の立場から整理し、モデル分析を行った。具体的には電力需給、交通インフラストラクチャー、インフラ整備のプロジェクトマネジメント等のモデル開発が活発に行われた。
◎*防衛と安全	宝崎 隆祐 (防衛大学校) 小宮 享 (防衛大学校)	23名	7回	今年度は7回の研究会を実施し、防衛と安全という広範な分野における諸問題について、各分野の最新の研究状況や成果の報告を受け、OR 的見地からの分析に必要なテーマと問題の発掘ができた。

10. 表彰 (定款第 5 条 5 号)

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

第 36 回文献賞の選考を行い、以下のとおり決定した。
該当なし

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞奨励賞 第 3 回文献賞奨励賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

- ・ A Nonmonotone Memory Gradient Method for Unconstrained Optimization
Journal of the Operations Research Society of Japan Vol. 50, No. 1

成島康史 (東京理科大学)

- ・ Large-scale semidefinite programs in electronic structure calculation

Mathematical Programming Series B 109

福田光浩 (東京工業大学)

(3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞

第 33 回普及賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

- ・ 木下栄蔵 (名城大学)

- ・ 前田忠昭 (東京ガス株)

(4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞

第 32 回実施賞の選考を行い、下記のとおり決定した。

株式会社 野村総合研究所

(5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞

第 28 回事例研究賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

- ・ 裁判員制度における判決の信頼性

オペレーションズ・リサーチ Vol. 52, No. 12

松田走一郎, 小澤正典, 森 雅夫 (慶應義塾大学)

- ・ Emerging Sequence Pattern に基づく Web アクセスログデータからの知識発見

平成 18 年度データ解析コンペティション

羽室行信, 山本昭二, 中西正雄 (関西学院大学)

(6) 日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞

第 9 回業績賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

宮沢政清 (東京理科大学)

(7) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞

第 25 回学生論文賞の選考を行い、以下のとおり決定した。

- ・ ハブ・アンド・スポークネットワークの設計問題の近似解法

岩佐 大 (東京大学・修士論文)

- ・ 最適停止構造をもつ経路依存型オプションの価格評価

菊地一哲 (北海道大学・修士論文)

- ・ A scatter search algorithm for the multi-resource generalized quadratic assignment problem

小宮 彬 (京都大学・修士論文)

- ・ Algorithmic Computation of the Transient Queue Length Distribution in the BMAP/D/c Queue

大黒健太郎 (京都大学・修士論文)

- ・ A Unified Approach to Combinatorial Algorithms for Matchings and Matroids

高澤兼二郎 (京都大学・修士論文)

- ・ Discrete Optimization Approach to Index Reduction for Differential-Algebraic Equations

高松瑞代 (東京大学・修士論文)

- ・ 順序付け尺度のゲーム論的解釈と数値計算による検証

流王智子 (筑波大学・卒業論文)

11. 創立 50 周年記念事業 (定款第 5 条 6 号)

当学会は 1957 年 6 月 15 日に設立され、2007 年同月同日に創立 50 周年を迎え、記念事業として以下のものを実施した。

(1) 創立 50 周年記念式典・講演会

平成 19 年 9 月 26 日(水)に政策研究大学院大学想海樓ホール (東京・六本木) において、創立 50 周年記念式典・講演会・祝賀パーティーを開催し、以下の参加者を得て盛会裡に終了した。

- ①式典： 141名
- ②講演会： 206名
- ③祝賀パーティー：113名

第I部記念式典では、IFORS会長のElise del Rosario氏の来賓祝辞に続いて、第1回近藤賞授賞式、近藤賞受賞記念講演が行われた。

第II部講演会では以下の各界著名人4氏による講演をいただいた。

- ・岡村 正氏 (株東芝 取締役会長)「イノベーションを創出する企業経営」
- ・南部靖之氏 (株パソナ 代表取締役グループ代表兼社長)「企業価値を高める人材活用」
- ・黒川 清氏 (政策研究大学院大学 教授・前日本学術会議会長)「イノベーション」
- ・鳩山由紀夫氏 (衆議院議員・民主党幹事長)「政治を科学するのか、科学を政治するのか」

第III部記念祝賀パーティーでは、政策研究大学院大学学長のご挨拶の後、OR事典・アーカイブ紹介なども行われた。

(2) 秋季研究発表会特別セッション

創立50周年記念式典・講演会に続き9月27日、28日に政策研究大学院大学にて平成19年秋季研究発表会を開催した。同発表会において50周年を記念する特別講演2件ならびに国際セッションを実施した。

INFORMS会長であるBrenda Dietrich氏による特別講演では、INFORMSの概要に続き、より統合的な実務へのORの適用に関する説明がなされた。発表会2日目の飯塚雅樹氏(日本ヒューレット・パカード(株)取締役)による特別講演では、1950年代に生まれ今も全社員に受け継がれる企業理念HP wayの紹介を中心に講演をいただいた。

国際セッションは、国際交流事業の一環として実施した。前中国OR学会会長、前韓国OR学会会長、IFORS会長、INFORMS会長による基調講演に続き、日本OR学会から伏見正則氏、高森寛氏、大山達雄氏、香田正人氏をパネリストに加えパネルディスカッションが行われた。洋の東西を問わず、ORをより広く知ってもらうことが重要である点など共通の課題認識が得られた。

(3) OR誌創立50周年記念特集号の発刊

創立50周年記念特集号として、52巻6月号「歴代会長からのメッセージ」、52巻9月号「新・ORの図解」、52巻12月号「近未来社会からのORへの要請」を発行した。

(4) JORSJ創立50周年記念特集号の発刊

英文論文誌JORSJ Vol. 50, No. 4を創立50周年記

念特集号として2007年12月に発行した。本特集号は、OR研究の将来につながる質の高い論文16編を掲載したもので、その内容は各分野の若手エース級研究者の招待論文を中心として特に論文の質にこだわった。

(5) ORアーカイブの作成・公開

OR学会の資産であるこれまでに発行された機関誌、論文誌、研究発表会アブストラクト集のアーカイブを作成し9月26日の記念式典に併せ学会ホームページ上で公開した。現在、機関誌はVol. 41~Vol. 50、論文誌はVol. 39~Vol. 48、アブストラクト集は1995年春季~2005年春季、シンポジウム予稿集は第33回~第53回を掲載している。

(6) OR事典2007の発刊

OR事典2000を改訂し、wikiを使ったOR事典ORwikiを作成し、学会ホームページ上で公開した。<http://www.orsj.or.jp/~wiki/wiki/>。具体的な内容としては、OR事典2000の全面的見直しを行い、基礎編については4項目を削除して新たに28項目を追加、用語は300語を追加、事例編はORアーカイブズのインデックスを作成、資料編はその後の変化を収録するなどして、新たに構成し直した。公開後もwikiの長所を生かし、編集委員会を中心に改訂作業を行っている。3月現在のヒット件数は8万件である。

(7) 近藤賞の創設

ORの研究・教育・普及に傑出した業績を挙げた個人またはグループを称え、わが国におけるオペレーションズ・リサーチの発展に資するとともに、この分野を広く社会に周知させることを目的として「近藤賞」を創設し、募金活動を行った。

近藤賞の創設にあたり、平成18年度から近藤賞準備委員会委員長として今野浩氏(OR学会前会長・中央大学)、準備委員として大山達雄氏(OR学会副会長・政策研究大学院大学)と香田正人氏(筑波大学)が務めている。

近藤賞基金への募金にあたっては、近藤賞募金委員会委員長として今野浩氏、委員として大山達雄氏、前田忠昭氏(東京ガス)、森清亮氏(電力中央研究所)、香田正人氏が務め、平成19年に延べ2,245人・社の応募があり、募金総額は15,998,000円であった。

第1回受賞者には茨木俊秀氏(関西学院大学教授・京都大学名誉教授)を決定し、9月26日の創立50周年記念式典において表彰した。

(8) 記念出版

創立50周年記念として、次の2シリーズを朝倉書店から出版中である。

- 1)シリーズ「オペレーションズ・リサーチ」第1回配

本

木下栄蔵・大屋隆生著「戦略的意思決定手法 AHP」平成19年9月25日発行

2)基礎数理講座 第1回配本

刀根 薫著「数理計画」平成19年9月20日発行

(9) SSOR (Summer Seminar of OR)

若手実務家・研究者・学生の有機的なつながりを創出する場を設け、OR普及の拡大を図ることを目的とし、平成19年8月29～31日(2泊3日)の日程で、伊東ホテル聚楽(静岡県伊東市)にて、合宿形式の研究発表会を実施した。参加者165名、発表件数52件と過去のSSORと比べても最大規模である。効果的な人材交流ならびに創造的な活動創出の場として、従来の研究発表会では構築が難しい異分野での個人的なネットワークの創出をサポートできた。また、部会や

支部での表彰の先駆けとなるものとして、SSOR Presentation Awardという新たな取り組みも行った。

(10) 国際交流事業

特別講演として「INFORMS: And the state of OR in the US」というタイトルでBrenda Dietrich氏(INFORMS会長)の講演を実施した。また、Elise del Rosario氏(IFORS会長)、Xiang-Sun Zhang氏(前中国OR学会会長)、Sung Joo Park氏(前韓国OR学会会長)、Brenda Dietrich氏をパネリストに迎え、「ORSJ 50th Anniversary: Past, Present and Future」と題したパネルディスカッションを開催した。

12. 支部活動(定款第5条6項)

支部ごとに次のとおり活動した。

支部活動報告

	北海道	東 北	中 部	関 西	中国四国	九 州
運営会議	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 1回	支部総会 1回 運営委員会 1回 幹事会 3回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会 2回	支部総会 1回 運営委員会・ 幹事会 2回
研究会		研究会 2回 (うち1回は研究部会との共催)	研究会 1回 支部研究発表会 1回	産学研究者交流会 1回	1研究部会	研究会 3回
講演会	講演会 2回	講演会 1回	特別講演会 1回 支部講演会 1回	講演会 2回	講演会 4回	講演会 3回
出版			支部ニュース5回 アブストラクト集 1回	OR誌52巻5号 特集担当 OR誌53巻5号 特集企画		
その他	チュートリアル セミナー 1回		支部シンポジウム 1回 中部OR研究会 2回	支部ホームページの運営	支部シンポジウム 1回 安全性・信頼性 ワークショップ 1回 平成19年春季研究発表会 第57回シンポジウム	

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

理事

定数: 12人から18人 非常勤

任期: 2年 (現在: 17人)

監事

定数: 2人 非常勤

任期: 2年

(現在: 2人)

2. 職員に関する事項(略)

3. 会議に関する事項

(1) 臨時総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
19.2.26	1. 平成 19 年度事業計画の件 2. 平成 19 年度収支予算の件 3. 名誉会員推薦の件	承認 " "

(2) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結果
19.4.23	1. 平成 18 年度事業報告の件 2. 平成 18 年度収支計算報告および 監査報告の件 3. 平成 19 年度 20 年度役員選任の件	承認 " "

- (3) 理事会 (略)
- (4) 支部長会議 (略)
- (5) 委員会・幹事会 (略)

4. 許可・認可・承認・証明に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

前年度に引き続き近藤賞基金の募金を行い、総口数 1,051 口、総額 9,195,000 円の寄付金があった。その累計は、総口数 2,268 口、総額 15,998,000 円である。

なお、平成 20 年 1 月より第 2 期の募金を開始している。

7. 主務官庁からの連絡事項等 (略)

8. 会員状況

(1) 入退会内訳

	名譽 会員	正会員	学生 会員	賛助会員		合 計	
				A 種	B 種		
平成 19 年 2 月末日	11	2,112	222	59 (68)	25 (25)	2,429 (93)	
平成 19 年 度	入 会		50	68	4 (4)	1 (1)	123 (5)
	移 動	学→正		37	△37		
		正→学		△1	1		
		正→名	3	△3			
	退 会	△1	△113	△17	△6(△6)	△2(△2)	△139(△8)
	除 名		△28	△18			△46
復 活		1				1	
純 増 減	2	△57	△3	△2(△2)	△1(△1)	△61(△3)	
平成 20 年 2 月末日	13	2,055	219	57 (66)	24 (24)	2,368 (90)	

() は口数

(2) 地域別内訳

	名譽会員	正会員	学生会員	賛 助 会 員	
				A 種	B 種
本 部	8	1,198	145	42 (50)	23 (23)
北 海 道		66	1	2 (2)	
東 北	1	77	1	1 (2)	
中 部	1	201	16	3 (3)	
関 西	3	287	43	6 (6)	1 (1)
中国・四国		122	4	2 (2)	
九 州		104	9	1 (1)	
合 計	13	2,055	219	57 (66)	24 (24)

() は口数

平成 19 年度財務諸表 (第 2 号議案)

貸借対照表

平成 20 年 2 月 29 日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	37,996,294	30,332,555	7,663,739
現金	247,477	614,406	△ 366,929
振替貯金	12,028,455	6,084,739	5,943,716
当座預金	25,586	25,586	—
普通預金	25,195,445	23,108,493	2,086,952
定期預金	499,331	499,331	—
未収金	1,872,494	1,584,432	288,062
未収会費	1,625,620	1,355,910	269,710

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
その他の未収金	246,874	228,522	18,352
前払金	34,049	7,340	26,709
仮払金他	42,580	3,100	39,480
流動資産合計	39,945,417	31,927,427	8,017,990
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	5,000,000	5,000,000	—
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	—
(2) 特定資産			
退職給与引当資産	7,107,000	6,216,600	890,400
敷金等移転準備積立金資産	3,621,640	3,621,640	—
名簿作成準備積立金資産	800,000	800,000	—
国際協力積立金資産	6,000,000	6,000,000	—
記念事業積立金資産	11,143,931	11,143,931	—
表彰事業積立金資産	4,700,000	4,800,000	△ 100,000
OA化積立金資産	8,380,000	8,380,000	—
50周年事業積立金資産	5,000,000	13,000,000	△ 8,000,000
国際会議積立金資産	1,119,890	1,119,890	—
OR事典積立金資産	1,800,000	1,800,000	—
財政調整積立金資産	4,253,225	13,007,709	△ 8,754,484
特別研究積立金資産	5,000,000	5,000,000	—
近藤賞基金引当金資産	13,968,144	6,803,000	7,165,144
特定資産合計	72,893,830	81,692,770	△ 8,798,940
(3) その他固定資産			
什器備品	172,780	228,575	△ 55,795
ソフトウェア	268,027	337,947	△ 69,920
敷金・保証金	1,596,000	1,596,000	—
その他固定資産合計	2,036,807	2,162,522	△ 125,715
固定資産合計	79,930,637	88,855,292	△ 8,924,655
資産合計	119,876,054	120,782,719	△ 906,665
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,822,823	308,700	1,514,123
前受金	25,311,835	25,924,253	△ 612,418
前受会費	23,362,920	21,286,050	2,076,870
その他の前受金	1,948,915	4,638,203	△ 2,689,288
預り金	260,573	424,650	△ 164,077
仮受金	15,900	—	15,900
流動負債合計	27,411,131	26,657,603	753,528
2. 流動負債			
退職給与引当金	7,107,000	6,216,600	890,400
固定負債合計	7,107,000	6,216,600	890,400
負債合計	34,518,131	32,874,203	1,643,928
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	5,000,000	5,000,000	—
指定正味財産合計	5,000,000	5,000,000	—
(うち基本財産への充当額)	(5,000,000)	(5,000,000)	—
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(72,893,830)	(81,692,770)	8,798,940
正味財産合計	85,357,923	87,908,516	△ 2,550,593
負債及び正味財産合計	119,876,054	120,782,719	△ 906,665

正味財産増減計算書

平成 19 年 3 月 1 日から平成 20 年 2 月 29 日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用収益			
基本財産受取利息	14,000		
② 受取入会金			
正会員入会金	75,000		
学生会員入会金	40,800		
③ 受取会費			
正会員会費	29,684,000		
学生会員会費	1,320,000		
賛助会員会費	7,898,000		
④ 事業収益			
会誌頒布収益	4,485,593		
研究発表会収益	4,275,000		
シンポジウム収益	155,000		
セミナー収益	1,080,000		
資料等頒布収益	141,300		
IAOR 収益	315,000		
EJOR 収益	527,000		
APJOR 収益	210,000		
受託研究費収益	1,000,000		
50 周年記念事業収益	746,881		
⑤ その他収益			
論文投稿掲載料	1,509,000		
広告料	4,344,000		
事務委託収益	150,000		
その他	9,500		
⑥ 受取寄付金			
受取一般寄付金	9,195,000		
⑦ 雑収益			
受取利息	257,455		
雑収益	200,216		
⑧ 引当金戻入			
引当金戻入	216,000		
経常収益計	67,848,745		
(1) 経常費用			
① 事業費			
給料手当	7,911,391		
臨時雇賃金	1,322,000		
旅費交通費	428,340		
通信運搬費	5,093,050		
減価償却費	125,715		
消耗品費	392,520		
会議費	138,138		
印刷製本費	11,327,977		
研究発表会	3,161,634		
IFORS 会費	359,623		
IAOR 購入費	275,967		

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
EJOR 購入費	432,000		
APJOR 購入費	166,642		
APORS 関係費	82,754		
シンポジウム開催費	325,500		
セミナー開催費	1,448,049		
OR 企業フォーラム	209,834		
研究部会費	909,794		
支部運営費	1,549,348		
支部事業費	537,926		
表彰事業費	1,451,543		
諸謝金	1,463,536		
受託研究費	1,000,000		
FMES 関係費	463,971		
50 周年記念事業費	6,259,876		
近藤賞関係支出	2,060,290		
② 管理費			
給料手当	7,911,391		
退職給付	162,000		
福利厚生費	2,189,473		
会議費	272,210		
旅費交通費	921,460		
通信費	771,106		
事務用消耗品費	20,204		
消耗品費	412,151		
修繕費	71,400		
印刷費	150,019		
家賃	3,750,384		
共益費	1,625,400		
保険料	10,000		
支払手数料	258,910		
租税公課	325,800		
負担金	3,500		
リース料	420,504		
OA 化準備費	38,764		
損金	536,087		
雑費	544,757		
③ 引当金繰入			
退職給与引当金繰入	1,106,400		
経常費用計	70,399,338		
当期経常増減額	△ 2,550,593		
当期一般正味財産増減額	△ 2,550,593		
一般正味財産期首残高	82,908,516		
一般正味財産期末残高	80,357,923		
II. 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期首残高	5,000,000		
指定正味財産期末残高	5,000,000		
III. 正味財産期末残高	85,357,923		

注. 当事業年度は新会計基準適用初年度であり, 前事業年度との比較はない.

平成 20 年度 21 年度役員候補者名簿 (第 3 号議案)

会務役職	定数	候補者	備考 (非改選役員)
会 長	1 (1)	伏 見 正 則	
副 会 長	3 (1)	田 口 東	川 島 幸之助
”			野 村 淳 二
庶 務	2 (1)	相 澤 りえ子	矢 島 安 敏
国 際	1 (0)		鈴 木 勉
研究普及	2 (1)	伊 倉 義 郎	久 野 誉 人
編 集	2 (1)	藤 重 悟	山 下 英 明
会 計	1 (1)	佐 賀 井 重 雄	
渉 外	1 (1)	上 田 徹	
広 報	1 (1)	八 卷 直 一	
無 任 所	3 (2)	大 屋 隆 生	木 村 俊 一
		塩 田 光 重	
監 事	2 (1)	山 下 浩	逆瀬川 浩 孝

()内は平成 20 年度改選数

平成 20・21 年度代議員候補者名簿 (第 4 号議案)

	氏 名		氏 名		氏 名
1	浅 田 克 暢	26	齋 藤 司 郎	51	生田目 崇
2	井 垣 伸 子	27	佐 藤 富 士 夫	52	行 方 常 幸
3	池 上 敦 子	28	澤 木 勝 茂	53	根 本 忠 明
4	池 上 匡 亮	29	三 道 弘 明	54	羽 鳥 彰 一
5	伊 田 嘉 昌	30	塩 出 省 吾	55	枇々木 規 雄
6	井野口 稔	31	神 正 照	56	藤 野 直 明
7	梅 沢 豊	32	杉 野 隆	57	前 田 隆
8	大 西 匡 光	33	鈴 木 敦 夫	58	前 田 博
9	大 橋 守	34	鈴 木 久 敏	59	牧 本 直 樹
10	大 山 達 雄	35	鈴 木 道 夫	60	松 山 久 義
11	海 生 直 人	36	関 谷 和 之	61	水 野 眞 治
12	檜 尾 博	37	高 井 英 造	62	武 藤 滋 夫
13	片 岡 靖 詞	38	高 橋 理	63	諸 星 穂 積
14	加 藤 直 樹	39	高 橋 幸 雄	64	矢 部 博
15	久保田 光 一	40	田 中 庸 平	65	山 上 伸
16	栗 尾 孝	41	田 辺 隆 人	66	山 下 勝 比 拈
17	栗 田 治	42	玉 置 光 司	67	山 田 茂
18	香 田 正 人	43	田 村 明 久	68	山 本 芳 嗣
19	腰 塚 武 志	44	土 谷 隆	69	米 沢 隆
20	小 島 政 和	45	時 永 祥 三	70	若 山 邦 紘
21	後 藤 順 哉	46	中 川 慶 一 郎		
22	後 藤 義 雄	47	中 出 康 一		
23	古 林 隆	48	中 野 一 夫		
24	近 藤 幹 雄	49	中 森 眞 理 雄		
25	今 野 浩	50	中 山 明		